

飛鳥学冠位叙任試験（上級編）問題案【解答】

1. 乙巳の変で蘇我本宗家が滅亡した翌日には新政府の陣容が決定されたといえます。孝徳天皇が即位し中大兄皇子が皇太子、右大臣に蘇我倉山田石川麻呂、では左大臣は誰？

A 阿倍内麻呂

2. 発掘調査によりある寺の塔跡から300点余りの十二尊連坐塼仏が出土しました。ある寺とは？

A 山田寺

3. 百濟は2度にわたって遷都をしました。都城が現在のソウルにあった時期を「漢城期」、忠清南道公州市に移った時期を「熊津期」、そして最後は忠清南道扶餘に遷都した時期を何期という？

A 泗泚期

4. 壬申の乱勃発時、倭京の留守司を務めた高坂王は大友皇子側の軍營をどこに設た？

A 飛鳥寺西の槻の樹の広場

5. 養老元年（717）、多治比真人県守を大使とする遣唐使の一員として唐に渡ったとされ、中国西安で墓誌が発見された人物は？

A 井 真成

6. 鎌倉時代初期（平安時代末とも）の成立と推定される歴史物語で、神武天皇から仁明天皇まで57代の事跡を編年体にとまとめたもの。その物語の名前は？

A 水鏡

7. 雷丘に関する逸話として、『日本霊異記』では雄略天皇の命を受け少子部栖軽が雷神を捕える説話がありますが、『日本書紀』雄略天皇7年7月条には栖軽が三諸山（三輪山）の何を捕え、奉ったと書かれている？

A (大) 蛇

8. 『日本書紀』によると舒明天皇の遺体は「滑谷岡（なめはざまのおか）」に葬られたとされるが、何年何月と記されている？

A 皇極元年（642）12月

9. 聖徳太子によって著されたという『三経義疏』は三つの経の注釈書といわれるが、法華経、

しょうまん
勝鬘経とあと一つは？

A ゆいま
維摩経

10. 『扶桑略記』には坂田寺の起こりとして、鞍作氏に関し「〇〇天皇16年壬寅2月に入朝した大唐漢人であり、大和国高市郡坂田原に草堂を営み本尊を安置……」と記されていますが、〇〇天皇とは？

A 継体天皇

11. 昭和11年、須弥山石の出土地（現在の石神遺跡）で発掘調査を指導した人物は？

A 石田茂作

12. 牽牛子塚古墳で見つかっている棺は、一般的にどの様に呼ばれていますか。フリガナ付で記して下さい。

A. 夾紵棺（キョウ チョ カン）

13. キトラ古墳に描かれた天文図は朝鮮半島と密接な関係があり、李氏朝鮮の時代につくられた「〇〇〇〇〇〇〇図」と類似するといわれます。この元本は戦乱で大同江に沈んだとされ1395年に復元され現代に伝わっています。「 」は何でしょう？

A 天象列次分野之図

14. 山田寺から発掘された東回廊部材のうち、3間の長さがある頭貫の樹種は？

A クスノキ

15. 『続日本紀』によると、大宝元年の正月におこなわれた元日朝賀の儀式で樹立された幡は何本あった？

A 7本

16. 壬申の乱によって亡くなった大友皇子は、近代になって「弘文天皇」として歴代天皇に加えられました。いつ加えられた？

A 明治3年

17. 『日本書紀』によれば崇峻元年（588）、百済国から僧惠総が仏舎利を献じ恩率首信等を遣し調を進め、それとともに寺工・鑪盤博士・瓦博士・畫工ら技術者計〇人を奉ったと記されています。〇人か？

A 8人

18. 天理教岡大教会近くで出土した木簡には649～664年の冠位が書かれていました。その冠位は？

A 大花下

19. 飛鳥で「具注歴」の木簡が出土しました。その遺跡はどこ？

A 石神遺跡

20. 『日本書紀』では壬申の乱のとき、大海人皇子方の大伴吹負が急襲して武器を接収した兵庫（武器庫）は何処にあったとされる？

A 小墾田

21. 西暦650年、白い雉が朝廷に献上されました。これを瑞祥とみなし元号を「白雉」と改めたといいます。どこの国からの献上？

A 穴戸（長門）国

22. 『日本書紀』に「自難波至京置大道」という記載がありこれが難波大道かと言われているが何年のことだと記載されている？

A 推古21年（613）

23. 『日本書紀』に「天下の人民は、老いも若きも泣き叫ぶ声で溢れた。日月は光を失い天地も崩れたようだ」などと表現された事象は？

A 聖徳太子（厩戸皇子）薨御

24. 『日本書紀』斉明天皇3年9月条に「〇〇皇子、性黠くして陽狂すと、」と記された〇〇皇子とは？

A 有間皇子

25. 阿倍仲麻呂は遣唐使として唐に渡って立身出世を果たしたが帰国の望みを果たすことなく唐において客死しました。唐の役人として活躍した仲麻呂の中国名は？

A ちょうこう
晁衡

26. 『日本書紀』によると崇峻元年（588）、法興寺造営の記事がみえるがある邸宅を壊している。壊されたのは誰の邸宅？

A あすかきぬぬいのみやつこがおやこの
飛鳥衣縫造祖樹葉

27. 万葉集には日並皇子ひなみしみこ（草壁皇子）の死を悼む歌が数多く集められています。何首？

A 27首

28. 国営飛鳥歴史公園祝戸地区に隣接する国史跡の「飛鳥稻渚宮殿跡」は別名に何遺跡と呼ばれますか？

A 稻渚川西遺跡

29. 「三諸の ○○○ゆ との曇り 雨は降り来ぬ 天霧らひ 風さへ吹きぬ 大口の真神の
原ゆ 思ひつつ 帰りにし人 家に至りきや」(巻13-3268 作者未詳)の○○○に入るのは？

A 神奈備山

30. 飛鳥・藤原の時代に整備・活用された古道は現代もその名残をとどめるところが多くあります。貴方が一番興味を惹かれる古道に関し、歴史上の事跡を織り込み思うところを書いてください。

[参考：山の辺道、上・中・下ツ道、横大路、山田道、紀路（巨勢道）、筋違道（太子道）等]

(例えば)

飛鳥時代の「古道」といわれる上記の道は現在もその当時の名残をのこし現存し、今なお現役で活用されているところもあります。「古道」のロマンを、時代に翻弄された当時の人々の悲喜こもごも、万葉集に残された往時の記憶等をあなたの視点で解き明かしてください。

飛鳥学冠位叙任試験（上級編）論述問題案

3 1. 平成 27 年 4 月、「日本国創成のとき～飛鳥を翔（かけ）た女性たち～」が日本遺産に認定されました。明日香村は隣接する自治体とともに世界遺産登録を目指していますが、日本遺産から世界遺産登録につなげるため、世界中の人々にどのような飛鳥を見せるのか、京都を訪れる外国人の動向などを参考にその工夫とアイデアを示してください。

（例えば）

明日香村が世界遺産登録に向けた高いハードルをクリアするために何が必要か、どんな工夫が欠けているのか、斬新なアイデアをアドバイスください。

3 2. 先月、国営飛鳥歴史公園の 5 番目のエリアとして「キトラ古墳周辺地区」が開園しましたが飛鳥を訪れる観光客は減少傾向が続いています。貴方なら飛鳥の活性化にどんなアイデアを示せますか？

（例えば）

観光地の多様化が進む今、飛鳥観光が減少している原因はいろいろ考えられますが、永続的な飛鳥観光の振興について何でもかまいません。ユニークなアイデアをご提案ください。

3 3. 国史跡・名勝 飛鳥京跡苑池では、今春に休憩舎が開設されました。そこで、飛鳥時代の庭園について「方形池」「石造物」「飛鳥宮」「渡来人」「苑池」などのキーワードを参考に紹介して下さい。

【解答一例】

『日本書紀』推古 20 年（612）には、百濟からの渡来人である路子工 [みちこのたくみ・ろじこう] が小墾田宮の南庭に「須弥山」と「呉橋」を造ったとある。このうち須弥山は、1902 年（明治 35）に飛鳥寺北方の石神遺跡から発見された噴水機能をもつ石造物が、これに当たるとされてきた。その後の発掘調査では、一辺約 6m、深さ約 80cm の方形池が見つかっており、一帯に人工的な庭園があったのではないかと考えられる。

方形池は、石舞台古墳近くの島庄遺跡にもある。一辺 42m、高さ 2m 以上の石積み護岸、底面にも川原石を敷く隅丸の方形池である。7 世紀初頭に造られた。幅約 10m の外堤の上面にも石が敷かれていた。付近は、蘇我馬子の邸宅や草壁皇子の嶋宮（島宮）の有力な推定地であり、池を中心に宮殿付属の苑池が広がっていたものと考えられる。

飛鳥宮東方の酒船石がある丘陵北麓の谷間に「亀形石槽」を中心とする庭園遺構がある。西側を石積み、東側を階段式の石積みで囲われたなかに、レンガ状切石積みの給水施設から導かれた水を小判形と亀形の石製水槽に貯め、北方へと流す。酒船石と一体的に機能したものだろう。具体的内容は不明だが、水を用いたなんらかの祭祀空間になっていた。

飛鳥宮西方の飛鳥川右岸には飛鳥京跡苑池がある。斉明期（7 世紀半ば）に造営され、天武期（7 世紀末葉）に改修があった。ここは「出水の酒船石」と称される酒船石に似た石造物が大正年間に

掘り出された場所である。1999年の発掘調査で東西70m以上、南北200m以上の池が見つかった。池は渡土堤によって南池と北池に分れ、南池は東西60m、南北60m、隅丸の南端を頂点とした三角形を為す。護岸は石積み、底面にも石を敷く。以前に見つかった石造物と組み合う噴水装置となる立石も見つかった。また池の内部には二つの島が設けられていた。出土木簡には漢方薬の名に因むものや、庭園関係の官名、また海老錠の出土もある。南東側の高台に建物を配置し、周囲は掘立柱塀により区画される。2015年には東側の飛鳥宮に向かって開く門が判明した。飛鳥宮付設の苑池として評価されよう。

飛鳥時代の庭園の特徴としては、次の三点がある。①方形など幾何学的平面形を持つ池、②護岸が石積み、③石造物を配置する。これは、その後の日本庭園には見られない飛鳥独特のものである。また、こうしたデザインと技術の起源は、百済の宮殿や寺院に付設の方形池にあると見られている。

34. 「飛鳥」と書いて「あすか」と読ませたとみられる現存最古の木簡はどこから出土したか。遺跡名を書いてください。

また、なぜ「飛鳥」と書いて「あすか」と読めるのかについて、『万葉集』にも触れつつ、知るところを述べてください。

【解答一例（要点）】

- ・遺跡名：飛鳥池工房遺跡 ※「飛鳥寺」と書かれた木簡が出土
- ・古代日本語は独自の文字を持たず、表記には外国語の文字であった漢字を用いた
- ・漢字一字を日本語の発音一音にあてた宛て字表記（いわゆる万葉仮名）もなされた
- ・ひらがなやカタカナはまだない
- ・「あすか」を修飾する歌の表現（いわゆる枕詞）として定着していたことから
- ・「飛鳥」と表記して「あすか」の音を表すようになったと考えられる
- ・万葉歌に例がみられる（「とぶとりの明日香の里を置きて去なば君があたりは見えずかもあらむ」『万葉集』1-78 など）